

# 資源循環 取り組み実る



受賞を報告する、とぼりサイクルネットワークの山西元理事長（右から2人目）ら。鳥羽市役所で

資源循環型社会の構築を目指しリサイクルの推進に取り組む「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会」（東京）の推進功労者等表彰で、同協議会会長賞を受けた鳥羽市のNPO法人とぼりサイクルネットワークの山西元理事長ら三人が一日、市役所を訪れ、木田久主二市長へ受賞を報告した。

## 鳥羽のNPO法人 市長に受賞報告

同ネットワークは二〇〇六年十月に発足。翌年三月から、同市大明東町にオープンした市のリサイクル拠点「鳥羽リサイクルパーク」を管理・運営し、資源ごみを常時受け付けている。生ごみの堆肥化や、リユースショップの運営もしている。

地元の鳥羽商店会のポイントカードを活用し、資源ごみの受け入れ量に応じて、市民へポイントを還元するといったユニークな試みもし、全国各地から視察もある。

今回の推進功労者等表彰には、全国から百四十二件の応募があった。同ネットワークは、県の推薦を受けて応募し、ごみゼロ社会を目指す取り組みが評価された。

山西理事長は「今、市全体の五分の一の資源ごみが、リサイクルパークに持ち込まれるようになった。受賞は取り組んできたことが認められた結果」と喜んでいった。

（遠藤健司）